

最終的にどういう色味にするかによって下地の色は決まっています。

○アクリルの面白さをお話ください

失敗しても上から重ねていけばいいし、削ることも出来る。自由度が高い(笑)。

○けっこう体力勝負みたいところはありますか
そんなことはないですよ。場所は取りますけど。

○ヤング誌や青年誌の作品にしてはけっこうカラーを描いていますよね
そうかもしれないですね。編集さんから頼まれたら描くくらいで、自分から意図としては描いたことはありません。

○自分のまんがの表現手段としてカラーは不可欠ですか？
あまり考えたことはないです。

○『LUNA』ではデジタルで描かれているんですよね
自分的にはやめておけばよかったかなと思いました(笑)。デジタルは同人誌でちょっとやっていたのですが…。今後はテレカとか小さい絵ではやるかもしれませんが、普通の大ききでカラーをやる時はデジタルはやらないと思います。

○インターネットはされていますか？
やろうとは思っていますが、まだやっていません。うちのパソコンはただの絵描きマシンです(笑)。

『イエスタディをうたって』<図10>
<図10>『イエスタディをうたって』
3巻 ●集英社 ●505円+税 ●2年2月24日初版
2巻 ●集英社 ●505円+税 ●00年4月24日初版
1巻 ●集英社 ●505円+税 ●99年3月24日初版
○まだ描いていますよね(笑)
やってます(笑)。今度はね、5月くらいに出る「ビジネスジャンプ」<注3>に載ります。単行本は今年ちょっと難しいかな(笑)。何ヶ月毎というのは決まっていなくて、各社の仕事の順番で描いています。
<注3>「ビジネスジャンプ」03年13号
●集英社 ●5月31日売

○『羊のうた』とは対極にある作品だとぼくは思いますが
始めたときに明るい話が描きたかったんだと思います(笑)。同じようなものをやってもしょうがないから、やるのだったら全然ちがうものを描くわけです。

○複雑な人間関係はありますが
ああいうラブコメみたいなものもちょっと描いてみたかった。動かしやすい人間関係を考えて、ああいうつながりを作りました。

○途中から出てくる高校生は
あれも最初から考えていました。

○ハルがひたすらかわいい
あの女の子はお気に入りのキャラなんですよ。

○カラスのいうのは
普通のかわいい女の子がいるというのではなく、何かプラスされたものを良いと思って(笑)。カラスを飼っている女の子ってなんか変じゃないですか。もっとかわいい動物を飼えばいいのにな(笑)。

図11

図12



図13



図14

○ハルの母親の恋人とか、『羊のうた』の一砂の育ての親の江田さんとか、なんか似ていますね
そうですね。割と好き系かもしれない

○時々先生のお好きな趣味がちょこっと描かれているような(笑)
まあ遊びもあります(笑)。

○2巻のカバーの見返しの怪獣デジタル<図11>は先ほど話されたようにお友達が？
あの怪獣自体も友達が粘土で2体作ってくれたのを、自分でアクリル絵具で適当に色を付けて、それでデジタルに取り込んで作ってもらいました。『南海の大決闘』<注4>みたいな感じにしてくれと言ったら、南海というか、江ノ島くらいしか見えなかった(笑)。
<図11>>2巻カバー見返し
本編の「ゆらゆら」の回でハルが魚住に見に行こうと誘った怪獣映画。
<注4>『南海の大決闘』
正式なタイトルは『ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘』。66年年末に公開された東宝の怪獣映画。エビラとはエビとザリガニがモデル。初の甲殻類系怪獣。

○このお話の先行きは？
ある程度、人間関係に決着をつけていきたいですね。

『LUNO』<図12>
<図12>『LUNO』第1巻
●スクウェア・エニックス ●857円+税 ●3年3月22日初版

○第4話目でやっとゾンビになりましたが
これはもっと短くなる予定の作品でした。最初の思いつきとして、少年と少女が主人公のちょっと絵本的な物語にしたいと思っていたのが、ちょっと意図としてちがうものになってしまった(笑)。発明好きの男の子とゾンビみたいな女の子のちょっと良い話みたいな感じのラインを考えていて、4回くらいで終わる予定だったですよ。それが…。

○装丁も絵本っぽい
そうです。ハードカバーの単行本ははじめてです。

○巻末に次回作の予告が載ってますが
まだ予定ですが。ホラーじゃなくて活劇もありかな、くらい(笑)。『LUNO』シリーズとして、アルゴスという死人を蘇らせるおじいさんだけが同じキャラクターで共通して出てきて、主人公とかは変わっていくと展開を考えています。描くのは来年になると思います。

『ACONY』<図13>
<図13>『ACONY (アコニー)』
●「アフタヌーン」隔月連載 ●講談社
(C) 冬目景/講談社
○コメディですね

割とコメディです。『ACONY』は建物を描きたかったんですよ。同潤会アパート<注5>とか、古い建物が昔から好きなんです。だから『めぞん一刻』みたいなものももちろん好きなんです。建物がテーマで、なかに変な住人たちが住んでいる、というのを描いてみたかった。
<注5>同潤会アパート
関東大震災で失われた住宅供給のための住宅建設の一環として、同潤会アパートは東京、横浜に大正15年から昭和9年にかけて15ヶ所、2千200戸余りが建設された。一般的になじみがあるのは、原宿の表参道に面した、3階建ての鉄筋アパート群「同潤会青山アパート」。最初に建設されたのは墨田区の「中之郷アパート」で、「